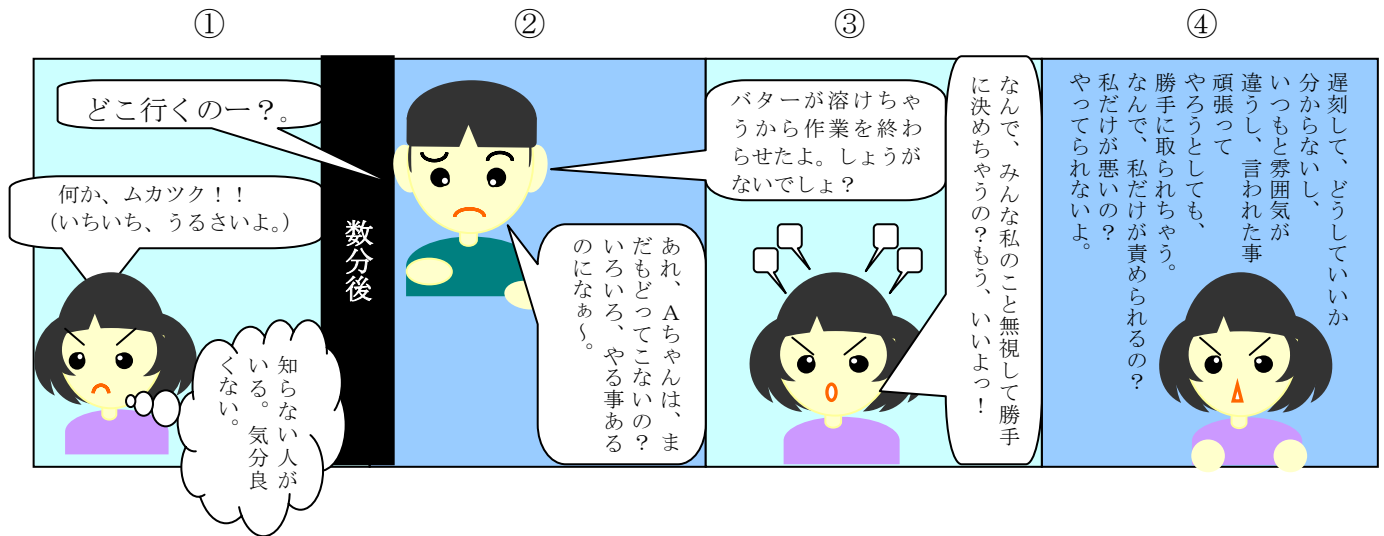


3. 事例2: 自分の知らないところで話が進んでしまいパニックに ～ゆっくり自分の行動を見つめなおすためのサポート～

特定非営利活動法人 子どもの研究所
水野 洋



<概要>

23歳女性 中学で不登校を経験する。中学卒業後、私立高校へ入学するが、1年途中で中退してしまう。そのまま22歳まで6年間ひきこもりをする。本人と親御さんの希望によりシオン学苑に在籍し、現在に至る。

精神科への通院暦（診断名はパニック障害）はあるが、現在通院はしていない。シオン学苑にて、高校卒業を目標に授業を進めているが、知能は国語を抜かして平均以上である。国語において漢字はとてもできるが、文章問題が苦手なようである。総括すると暗記や公式を用いる单元ではとても高い得点をとるが、思考を深めていくような单元では平均以下である。

彼女は枠にはまっている、型にはまっている生活を好み、計画通りにことが進まないとき多少混乱してしまう。シオン学苑の生活もだいたい慣れてきて、半年を過ぎたくらいから製菓シオン学苑にてお菓子作りのアルバイトを始める。

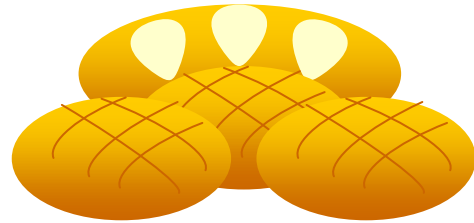
数ヶ月が過ぎ、お菓子作りにも慣れてきた頃、製菓シオン学苑のスタッフから彼女が居なくなってしまったとの連絡があった。当日彼女は遅刻をしてきた。スタッフは、新しいメニューを試作するため、ケーキ屋を経営していた方を先生として来ていただくことになった旨をその生徒に伝えた。生徒はしばらくすると何も言わずに、トイレに行ってしまった。クッキー生地をこねている最中だったので、バターが溶けてしまうと駄目になると思ったスタッフは、しばらく後、彼女のクッキー生地をこね終え、型を作ってしまった。そこへ彼女が長いトイレ（20分は居なかった）から帰ってきて、「自分の仕事が無くなっている」、「新しい人が自分に許可無く入っている」ことを怒鳴り散らした。スタッフは、なぜ仕事の続きを行ったのか、一般的に雇い主が新しい先生と契約する際、アルバイトに許可を求めないことを述べると、彼女は出て行ってしまった。フォローを頼むとのことだった。

事務所にいると生徒の一人が二階から降りてきて、「彼女が部屋で壁を蹴飛ばしているが大丈夫か。」と教えてくれた。二階にあがり彼女の部屋の前で、ドーン、ドーンと音がする中、ノックをした。しかし、返事は無い。中に入ることを述べて、部屋の中へ入った。彼女はベッドにもぐっているらしい。

「どうした？」との間に、彼女は無言。数分後、
「今日、アルバイトに行ったら、自分の仕事をとられてしまった。」とやっと聞こえるくらいの声で答えた。

「それで、嫌な気分になって帰ってきたんだ。」と言うと、
「うん。」と答えた。少し沈黙の後、続けて、
「トイレに行って帰ってきたら仕事が無くなっていて、自分に許可無く、新しい先生を雇っているのもむかつくというか・・・」と自分の気持ちを述べた。それに対し、
「トイレに行ってしばらく帰って来なかったけれど、仕事は残しておいて欲しかったんだね。それと、新しい先生を雇うときは、あなたに一言声を掛けて欲しかったということだね」と答えると彼女は、
「うん。そう。それを製菓部のスタッフに伝えて欲しいです。」と要求した。私は彼女に、
『状況が変わるか分からないが、以上2つのことは確りとスタッフに伝える』ことを約束した。しばらく沈黙のあと、部屋を出ようと立ち上がると、彼女は、
「遅刻していった自分も悪い」と言いつつ、
『はじめに入ったときのスタッフの顔が気に食わなかったことやトイレに言った後、新しい先生のことでもやもやして、外にしばらくいたこと』など、気持ちを述べ始めた。

そして、最後に、
「やっぱり、製菓部のスタッフには何も言わないで下さい。色々あったけれど、自分が悪かったと思います。すみませんでした。」と言ってくれた。
裁きを入れずに彼女の言うことを聴くことにより、彼女の中でゆとりが生まれ、洞察を入れることができたのだろう。



<この対応はダメだった>

★製菓部スタッフが言った言葉を、「なぜ自分の仕事が無くなってしまったかの説明」、「新しい人が自分に許可無く入ったことの説明」をその時に当人に伝える行為はギャンブルです。教育上、嫌な思いをさせてでも学ばなければならないことがあると思うかもしれませんが、タイムリー（適時）ではありません。

沈黙は、心地よい沈黙と緊張のある沈黙があると考えます。相手の反省を促すために、緊張のある沈黙を続けることは、当人の心を閉ざしてしまう可能性があります。ひきこもりぎみの方にはマイナスに作用する事の方が多いのではないのでしょうか。

<こんな対応が良かった>

☆製菓部スタッフが言った言葉は、確りと受け止める。しかし、渦中にあるときは、その言葉を当人には伝えないこと。車のサスペンション役をする感じです。時期がきたら、当人へ伝えるのも良いですが、そんなことをしなくとも、当人は分かっていることが多いのです。

沈黙は、短い時間でもとても長く感じます。相手の表情やしぐさでなんとなく心地よい沈黙か、そうでない沈黙か分かりますが、言葉掛けによる確認は必要です（「今何を考えているの。」、「どんな気持ちか教えてくれないかな。」など）。

当人にゆとりを与え、考えを整理し思考を深めていく過程を、聴くという能動的手法を用いて促していくことのできた事例だと考えます。